

広報広聴委員会行政視察報告

日 程：平成 30 年 10 月 9 日（火）～10 日（水）

参加者：北林委員長、玉川副委員長、岩崎委員、中川委員、大道委員、重光委員、加根委員、
宮川委員、谷委員、乗越委員、事務局随員 2 名

●福岡県大刀洗町

【議員定数】12 人

【人 口】15,567 人

【面 積】22.83 k m²

【視察事項】議会だよりの編集等について

1 視察概要

大刀洗町は、全国町村議長会が主催する町村議会の広報コンクールにおいて、全国 279 町村が応募した中で、わかりやすい内容やレイアウトを評価され、3 年連続で入賞されている。

限られたページ数の中に多くのコンテンツを配置しているが、要点を絞った編集で効率的な紙面構成を図られており、本市の市議会だよりの参考とするために視察を行った。



2 発行の状況について

- (1) 発行回数 年 4 回（基本的に定例会の翌月）
- (2) 発行部数 5,000 部／回
- (3) 配布方法 区長配付
- (4) 発行までの日数 30～40 日
- (5) 編集回数 5～8 回／号
- (6) 規格・ページ数 A4 12～26 ページ（平成 27 年 7 月よりフルカラー）

3 編集の流れ

- (1) 定例会開会前に広報委員会開催
 - ① 編集日程、主な構成（特集含む）、担当ページを内定。
ただし実際の審議状況により変更する場合もある。
 - ② 「議案」「予算（決算）」「一般質問」「委員会活動」「特集」などコーナーごとに 1～2 名の担当者を決定し、内容によっては他委員が補佐する。
- (2) 閉会后、入稿まで 2～3 回の委員会を設ける
 - ① 具体的な掲載内容を協議し、それぞれ担当ページの原稿、割り付けを作成。

- ② 会議日の7日後ごろに議事録（初稿）が到着するので、ただちにページ担当者や一般質問者へ配布する。
- ③ 一般質問者から提出された原稿は全委員で読み合わせし、事実や表現について協議する。既定の文字数を上回るものや修正が必要な場合はページ担当委員が質問者と調整する。

(3) 入稿

- ① 本文や表、グラフ、写真はデータで入稿する。
- ② 紙面の割り付けについては、ページによっては紙（手書き）による入稿もある。

(4) 校正

- ① 1校時…全文読み合わせ、未稿部分を協議
- ② 2校時…全文または修正部分を読み合わせ。レイアウトや色調も整理する。答弁部分は執行部へ回覧し意見を参照する。
- ③ 3校以降…主に修正部分を読み合わせ。最終的には正副委員長と事務局で校了の指示を出す。

4 編集における主な留意点

- (1) 言語…行政用語を排して、できるかぎり分かりやすい表現に。質問と答弁は簡潔に。専門用語には注釈をつける。言語表記は記者ハンドブック（共同通信社）を参照。
- (2) 正確性…質疑や数値など、必要な部分は執行部に回覧し意見を参照する。一般質問は原案を全委員で読み合わせ。
- (3) 紙面構成…文字を詰め込みすぎず、見出し、写真、表、余白のバランスを適切に。見出しで概要をつかんでもらう。147号よりフルカラー化、150号より綴じ穴を廃止し、視覚的な充実を図る。
- (4) 企画…議会からの情報だけでなく、住民との双方向の紙面づくりを目指す。町民の声（平成16年～）、新有権者の声（29年～）、傍聴席の声、議会報告会での住民意見と議会からの回答、議会モニター懇談、表紙に子どもなど。

5 企画・構成の特徴（本市との違い）

- ・表紙は子どもを採用することが多い。
- ・答弁事項調査制度にもとづき、質問追跡の記事を作成している。
- ・一般質問は議員のつぶやきとして、自由記述欄を設けている。
- ・議会モニターによる、毎定例会後の懇談内容を掲載。
- ・傍聴者のアンケートから抜粋したものを掲載。
- ・賛成・反対の双方あった議案について、議員個人の賛否を掲載。

5 委員の感想

- ・広報紙の発行部数においては、本市と比較すべきものではないものの、その内容においては、限られたページを有効に活用し、訴える力を持った広報紙であった。編集作業の実際について伺ったところ、言語表記に「記者ハンドブック（共同通信社）」を活用して分かりやすい表現に努め、正確性・紙面構成において工夫が成されていた。その一方で、住民との双方向性を持った議会だよりを目指すといった観点から、町民の声、新有権者の声、傍聴者の声といったコーナーを設け、紙面の充実にも努めておられた。また、編集を経て発行までの期間が約2か月であることから、編集会議が多く開かれていたようである。なお、出来上がった広報紙には綴じ穴がなく、背中部分にホッチキス留めもしていないといった体裁であり、少し奇異に感じたが、町民から特段の指摘もないそうである。
- ・広報委員一人ひとりが非常に高い意識を持たれて、企画・編集・発行に取り組まれているところは、私たちもあらためて気持ちを高めていかないといけないと感じた。ただし、委員に係る負担がかなり大きいようなので、工夫と改善の必要を感じた。
- ・広報誌を町民の方に手に取って貰い、読んでいただく工夫や取り組みをされているところは参考になった。（親しみやすい写真・一般質問などの文章がコンパクト等
- ・12人の議会が全力でされていることがよくわかった。議会の賛否情報、障害者対応、研修会の掲載、議会報告会での指摘や質問の回答の掲載など学ぶべき内容が多かった。
- ・なるべく行政用語を使わないことや、表や写真を使うなどの解りやすい紙面づくりに工夫が見られたことは、参考にすべきと感じた。ただ、全体のまとまり感はなく、紙面も目の動線を考えられてない感じがして、読み易さやデザイン性は課題があるように思える。
- ・定例会閉会后40日足らずで議会報が発行されており、素晴らしいと思えたが、議員の負担はかなり大きいものがあり、町議会の場合事務局の職員も少なく、議会だよりの発行は議員の労力に依るところが大きいようで、市議会の場合、議員は広報のスキルを上げるよりも、他に労力を傾注すべきところがあるように感じられる。
- ・議会モニター制度は、有権者8名で行われており、各定例会閉会后に議会運営委員会のメンバーと意見交換しているとのこと、厳しい意見も多いが、原点に帰れて参考になるとのことであった。本市も導入するべきと考える。
- ・表紙に子どもの写真を使っている点について、この地区で成功例に立っているが、他地区ではかならずしもそうなるとは思えない。ただし、アイデアとしては参考となる。
- ・表紙に主な記事のページを掲載してあるので、町民に分かりやすい。
- ・広報紙のページが20Pでも十分情報を発信できているし、空白を多くすることで読みやすさを感じた。アニメーションやレイアウトも内容によって都度変更されているので新鮮感がある。
- ・紙質も厚みがあるので、めくりやすい。
- ・一般質問での「議員のつぶやき」は良いアイデアである。以前視察した議会でも、議員が何を思って質問をしたか載せているところもあったので、参考にすべきと感じた。
- ・中の記事については、見出し文字をきれいな色遣いで配色し、アニメ風のキャラクターを使って親しみやすいイメージを作っている。配色の綺麗さは特に注目したい。
- ・大刀洗町の広報誌は配色やデザインが素晴らしく読んでみたくなる校正である。印刷会社とは特にデザイン契約されていないそうだが校正の段階でイラストや配色を印刷会社が行っ

ているとのことだった。また、表紙の写真は常に子どもを対象としておられ関係者にとっては広報誌を読むきっかけとなると思った。本市の広報誌ももっとデザイン力を上げるべきと思った。

- 一般質問のスペースを少なくする事は、有効であると思う。
- ページ数が東広島市は多いので、半分でよいと思う。
- 構成やデザインは、外部業者に行ってもらえるべきであると思う。

●大分県大分市

【議員定数】44人

【人口】478,222人

【面積】502.38k㎡

【視察事項】議会だよりの編集等について

1 視察概要

大分市は、中核市議会議長会において開催される議会報コンクールにおいて、平成23年に最優秀賞、平成24年に優秀賞、平成25年に最優秀賞を受賞しており、平成27年には3回目の最優秀賞を受賞されている。カラー紙面の効果を生かした、華やかなレイアウトが目を引き、見て楽しめる紙面づくりをされており、本市の市議会だよりの参考にするため視察を行った。



2 発行の状況について

- (1) 発行回数 年4回
- (2) 発行部数 211,000部/回
- (3) 配布方法 郵送・自治委員から全戸配付
- (4) 発行までの日数 40日程度
- (5) 編集回数 2回/号
- (6) 規格・ページ数 A4 12ページ(年1回16ページ)

3 編集の流れ

- (1) 開会前
 - ①編集スケジュールを作成。
 - ②質問者数を想定し、ページ割、ページレイアウト案を作成。
- (2) 定例会中
 - ①議員が一般質問の原稿作成。事務局で校正。
 - ②一般質問以外の記事や、全体校正についてたたき台を作成。
- (3) 閉会后
 - ①第1回広報委員会を開催。あらかじめ事務局で作成していた、たたき台をもとに、全体構成を協議。
 - ②第2回広報委員会を開催。印刷会社から届けられた初校をもとに色・写真等細部まで協議。
 - ③正副委員長・事務局で2校・3校を確認し、微調整を行いながら校了。

4 おおいた市議会だより見直しの経緯・改正点

(1) 平成 20 年 7 月に開催した市民意見交換会において、市議会だよりの記載方法等について要望が出され、議会運営委員会にはかり、市議会だより編集委員会でその内容について検討していくこととした。平成 21 年 3 月から、外部の専門家 2 名を交えて、見直しに着手。

(2) 改正点

1. 表紙 写真のスペースを従来の 2 倍にし、議会に関連のある写真にする。
2. 議会からのメッセージを伝える「クローズアップ議会 ここに注目 “議会の目”」をトップページである 2 ページに新設。
3. グラフや表、写真を使って、わかりやすい表現とする。
4. 質問・答弁（要旨）の原稿を、質問議員が作成。
5. 質問した議員の氏名と会派を掲載。
6. 議会の仕組みが理解できるように、議会用語の解説コーナーとして「ステップアップ市議会だより」を連載。
7. 議会の会派や委員会が分かりにくいと言う声に応え、「顔が見える」をキーワードに、会派や委員会を紹介する「こんにちは議会」を最終ページに新設。記事原稿は、会派や委員会の議員が作成する。
8. 編集後記として「編集よもやま話」を新設。
9. 親しみやすく、手に取りやすいように写真やイラストを増やした。（行政視察報告など）
10. 読みやすくするため、段の間に罫線を引いた。

5 企画・構成の特徴（本市との違い）

- ・ 議会の思いを伝える「クローズアップ議会 議会の目」を掲載。
- ・ 議会用語の解説コーナーを掲載。
- ・ 賛成・反対の双方あった議案について、議員個人の賛否を掲載。
- ・ 1 年毎に色や、デザインを変更している。
- ・ 文字は小さいが 12 ページの中に必要な情報を取り入れている。

◆委員の感想

- ・ 大分市は大分県の県庁所在都市であり、人口も 476,000 人余と、県内他市を大きく引き離している。そういった都市の広報紙は、総ページ数 12 と非常にコンパクトな紙面に、必要な情報がぎっしり詰まった印象のものである。そうなる伝える内容が多いことから、文字が多く読みにくいのではと事前には心配したものの、実際にはよく整理されていた。必要にして十分という表現が当たっている広報紙であるといえる。特徴的な記事としては「議会の目」という特集記事の中に、「議会本会議での質問に対する対応の経過」というものがあり、一般質問において「検討する」と答弁があった内容について、後日どのように検討され、問題がどのように取り扱われているか、結果報告がされていることであった。特筆すべきものである。また、広報委員会の正副委員長には議会運営委員会の正副委員長が就くといったことが慣例化しており、これは議会情報の発信に重要性があると、議会全体で認識されていること

の表れと感じた。

- ・外部の専門家2名を交えて、紙面構成を見直し、議会からのメッセージ、議会の仕組みや議会活動をわかりやすくするための工夫、さらに市民に親しみやすいもの資するための工夫をしてこられたことは、私たちの今後の広報づくりに対する、大きな示唆をいただいたように思う。
- ・一般質問の原稿を議員自身を書いておられるところは、私たちも参考にすべきだと感じた。
- ・請願・陳情も丁寧に対応し、掲載されていることは学ぶべき点ではないかと思う。
- ・人口47万都市だけあって、聞いてみると事務局頼みの議会報になっているようであった。紙面のページ数を少なくされている関係で、文字が小さく、記事も詰め込み過ぎと思えて、読み易さは感じられないものであった。
- ・議会報の発行時期が本市より1月早く、会議録の仕上がりを待たずに編集作業をしているとのことであった。本市においても、会議録ができてなくても、討論部分は録音を聞くなどして作業を行う等の工夫をして、発行時期を短縮するべきと感じた。
- ・表紙に主な記事のページを掲載してあるので、市民に分かりやすいと思う。
- ・統一感を持たせた体裁と色づかいが良い。
- ・出し文字の飾りやロゴが、毎号同じでなく変化させてあり、読者を飽きさせない工夫がなされている。
- ・限られたページに、情報を詰め込みすぎており、結果として文字が小さくなっている点はマイナスである。→文字の大きさについては本市のほうが読みやすい。
- ・大分市の広報誌の特徴は、表紙の写真が今一番旬の出来事を載せるということで、読者を惹きつける良い手法と思った。また、意見交換会の案内や知っていただきたい情報はデザインや事態も強調されており、本市の広報誌も見習うべき点と思った。
- ・毎年帯やメインカラーを変えているのは良いと感じた。
- ・一定の様式はあるものの、内容によって記事のレイアウトが変わっているのは変化があり読み手にとっても良いと感じた。
- ・文字の大きさも十分で、読みにくいという事は感じなかった。
- ・12ページという非常に限られた紙面の中でうまく表現をされていると感じた。
- ・若年層に参加してもらおうということで若い世代の興味を導くのはよい手法であると思う。
- ・編集のタイミングを早くし、また一般質問の掲載欄に制限を最小限にしているのもこのことは取り入れるべきと考える。

◆太刀洗町、大分市を通じての感想

- ・発行までの時間を短くするために、定例会前から委員会を開催し、一校目、二校目、三校目で仕上げていくのが良い方法である。
- ・一般質問は各議員が分担しているので、事務局の負担軽減につながるのも東広島市議会も検討していく必要がある。
- ・現在のページ数を見直し、20Pぐらいでまとめるのが良いと感じた。
- ・表紙の写真については、太刀洗町、大分市共に関心を引く内容となっているので、本議会も街の風景を表紙に持ってくるなどの検討をすればよいと感じた。
- ・議会だよりの校正については、印刷会社とも協議をして、現在のパターン化されているものを変更するとよい。